

## 令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価（3月21日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程学習指導	<p>(1) 単位制の利点をいかした年次進行制の教育課程に基づき、生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出す教育活動を展開する。</p> <p>(2) 学習意欲を高め、自ら考え、表現する力を育む。</p> <p>(3) 基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれらを活用する力の育成を図る。</p>	<p>(2) ICT機器等を利活用することで、生徒が主体的に学べる環境を構築し、わかりやすい授業を実現する。</p> <p>(3) 「わかる授業」を追求し、基礎的・基本的な知識・技術の習得を目指した教科指導を開く。加えて、外部教材を導入することで、基礎学力の更なる定着を図る。</p>	<p>(2) 生徒の学習意欲を高め、「わかる授業」を実現するために、ICT機器やGoogle classroomを活用し、組織的に実践研究を進める。</p> <p>(3) 「よりわかる授業」「何ができるようになるかを明確化した授業」を追求するため、教員間の情報共有を進め、組織的に授業を改善していく。また、基礎力定着ドリル「マナトレ」を実施し、更なる基礎学力の定着を図る。</p>	<p>(2) ICT機器等を効果的に利活用できたか。また、それにより生徒の学習意欲を高めることができ、生徒による授業評価の「できるようになったと実感することができた」の割合が90%以上になったか。</p> <p>(3) 授業改善の取組の結果、生徒の学習への姿勢が改善されたか。また、できるようになったと実感する生徒の割合が増え、生徒による授業評価の「それまでに学んだことと関連付けて理解することができた」の割合が90%以上になったか。</p>	<p>(2) ICT機器等を効果的に利活用し、生徒の学習意欲を高めることができた。しかし、生徒による授業評価の「できるようになったと実感することができた」の割合が80%であった。</p> <p>(3) 生徒による授業評価の「それまでに学んだことと関連付けて理解することができた」との割合が80%であった。授業改善の取組の結果、生徒の学習への姿勢が改善された。しかし、できるようになったと実感する生徒の割合が増えなかった。</p>	<p>(2) ICT機器等を効果的に利活用し、生徒の学習意欲を高めることができたが、目標の90%に達することができなかつた。ICT機器等の利活用では、研修テーマをニーズに合ったもので行い、利活用の事例を共有して、授業を学校全体で組み上げていく必要がある。</p> <p>(3) 「できるようになった」と実感させられるような成功事例を教員間で共有するための情報交換の機会を増やしていく必要がある。</p>	<p>(2) (3) ICTの活用により授業の標準化が進み、教員の負担軽減が期待されます。授業評価の目標90%に対し、80%以上の達成も高水準と評価できます。単位制により柔軟な対応を期待し、「わかる・面白い」授業で知的好奇心を刺激することが重要です。大型電子黒板を活用した授業の有効性も高く、さらなる研究が望まれます。また、端末不所持やログイン対応は継続的な課題であり、進学後を見据えたフォローが必要です。</p>	<p>(2) (3) 授業改善に取り組んだ結果、生徒の学習姿勢に一定の向上が見られた。また、ICT機器の活用により、生徒の主体的な学びを促進し、わかりやすい授業を実現した。しかし、生徒の授業評価では「できるようになったと実感する」割合と「それまでに学んだことと関連付けて理解することができた」割合が80%にとどまり、目標の90%には達しなかつた。生徒の授業評価の結果を真摯に受け止め、「わかる授業」を実現するための研修に取り組む。</p>	<p>(2) (3) 授業改善に向けた研修テーマをニーズに合ったものとし、ICT機器活用の成功事例を教員間で共有することで、より効果的な授業を構築する。成功事例を教員間で共有する機会を増やし、新たに導入したスタディ・サプリを効果的に活用することで、基礎学力のさらなる定着を図る。</p>
2 生徒指導・支援	<p>(1) 生徒の規範意識を育成し、社会や集団の一員であるという自覚を持たせる。</p> <p>(2) 学校生活への積極的な参加を通して、豊かな人間性やコミュニケーション能力を育成する。</p> <p>(3) 教育相談・支援体制の整備に努め、生徒一人ひとりの豊かな学校生活を支援する。</p>	<p>(1) 期待される行動を取ろうとしたり、マナーを守ろうとしたりする感性を醸成するとともに、他者を思いやり、違いを認める心や態度を育む。</p> <p>(3) 生徒の発達に応じた支援が行えるよう、体制の整備を行う。</p>	<p>(1) 時間とルールを守ることを主眼に「授業規律」「生徒心得」等を守れるよう、全職員で一丸となり、適切な声掛け指導や支援を行う。</p> <p>(3) 担任、年次、保健室、SC、SSW間で綿密に連絡を取り、課題を抱える生徒の情報を共有し、適切な支援に繋げる。</p>	<p>(1) 「授業規律」等のルールが守れているか。他者を思いやる行動が取れているか。欠席数、遅刻数、指導件数は減っているか。</p> <p>(3) 課題を抱える生徒に適切な支援ができたか。生徒情報共有会を実施すると共に、ケース会議を適時に開催できたか。かながわ子どもサポートドックへの取り組みを活かすことができたか。SC、SSWの件数は減っているか。また、サポートドックのプッシュ型面談の件数は減っているか。</p>	<p>(1) 欠席数、遅刻数、指導件数とともに昨年に比べ若干減少した。「授業規律」等のルールを守れない生徒、指示に従えない生徒が一部でいる。</p> <p>(3) 年度当初に生徒情報共有会を実施し、共通認識を持って生徒の支援に当たった。また、ケース会議を適宜実施した。かながわ子どもサポートドックを活用し、SC、SSWに繋がっている生徒がいたため、相談する生徒も多く、プッシュ型面談の件数は若干減少した。</p>	<p>(1) 「授業規律」等のルールを守れるよう、全職員が一丸となって、挨拶励行や適切な声掛け指導を続け、生徒との関係性の中で、誰にでも思いやる気持ちを育んでいく。</p> <p>(3) SC、SSW、保健室、年次で情報を細目に共有し、外部との連携も視野に入れながら、課題を抱える生徒への適切な支援を考えていく。</p>	<p>(1) あいさつ励行の声掛けやルール指導の継続が望れます。SC・SSWとの連携を深め、教員の日常的な声掛けやリレーションづくりを強化することが支援の基盤となります。生徒のあいさつや譲り合いの姿勢が見られ、良い環境が形成されています。特に「マナー・提出期限・時間厳守」の徹底は、進路実現や学習姿勢の基盤として重要であり、今後も継続を期待します。</p>	<p>(1) 「授業規律」等のルールを守れるよう指導致徹底した結果、欠席数・遅刻数・指導件数が減少した。しかし、一部の生徒はルールを守れず、指示に従えないケースも見られた。</p> <p>(3) SC・SSWとの連携を強化し、教育相談体制を整備し、充実した支援ができたが、支援を必要とする生徒が多く、全ての生徒に対して、適切な対応はできなかつた。生徒の指導・支援ともに、全職員での取組となるような情報共有及び環境整備を進める。</p>	<p>(1) 全職員で一丸となり、あいさつ励行や適切な声掛けを継続し、生徒が規律を守れる環境を整える。</p> <p>(3) SC・SSW・C0・容疑教諭・年次職員間等の情報共有の機会を増やし、外部機関とも連携しながら、支援を充実させる。</p>

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価(3月21日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	(1)生徒が自ら将来像を描き、主体的に生涯を生きる姿勢を育てる。  (2)生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、多様な進路希望の実現を支援する。	(1)「総合的な探究の時間」の授業展開を通じて、変化する社会で生き抜く人材の育成を進め、進路指導へ反映させていく。  (2)自分の可能性を信じてチャレンジする力を育成するとともに、それを支える教員の進路指導力の向上を図る。	(1)「総合的な探究の時間」において、分野別説明会、職業理解講座により自分自身の職業観を取り組めたか。  (2)進路希望調査、進路ガイダンス、第三者面談等を計画的に実施し、組織的な進路支援を行うことで、進路先未定の生徒数を昨年度より減少させることができたか。	(1)基礎力診断テストや説明会を通して、自分自身の職業観の確立等に積極的に取り組めたか。  (2)説明会や講習、模試等を実施し、組織的な進路支援を行うことで、進路先未定の生徒数を昨年度より減少させることができたか。	(1)基礎力診断テストを1・2年次2回、3年次1回実施した。また、総合的探究の時間や放課後に、進路説明会を1・2年次は3回、3年次は進学向け説明会を4回、就職向け説明会を7回実施し、生徒に進路や職業観について考える場を提供することができた。  (2)-①組織的な進路支援により、進路先未定生徒数は9.4%であった。  (2)-②校外での体験等の実施により進路に対する意識と学習意欲を向上してきた。	(1)-①生徒が進路目標をしっかりと定められるように、年次に応じた進路行事を計画的に実施していく。  (1)-②来年度実施する外部テストの結果を自学学習や進路指導にどのように役立てていくか考えていく。  (2)進路について考える機会を設け、生徒一人ひとりがそれぞれの特性を活かした目標設定や生徒自らが行動できるようにするために、きめ細かな指導を継続する。また、進路未定者の減少に努めていく。	(1)-(2)インターん受け入れも可能で、就職のきっかけとして活用いただきたいです。進路指導を早めに進める取り組みは良く、今後も継続を期待します。進路説明会や校外体験の充実により、職業選択のミスマッチが減ることができた。一方で、個々の特性を考慮した進路指導を含め、全ての生徒が明確な進路目標を持つための支援がさらに必要。また、進学先の傾向(4大・就職の増加、短大・専門の減少)については分析が必要である。	(1)-(2)進路説明会や総合的探究の時間を活用し、職業観の醸成を図るとともに、校外体験の実施により、進路意識の向上が見られたことで、進路未定者の割合を減少させることができた。一方で、個々の特性を考慮した進路指導を行なうためのサポートを強化する。進学・就職の動向を把握し、適切な進路指導を行うためのデータ分析を進める。	
4 地域等との協働	(1)家庭や地域との連携によりパートナーとして愛され、支持を得られる学校づくりを推進する。	(1)教育活動についての情報発信の充実を図り、家庭や地域により一層の理解と協力を求める。	(1)Webページ、メール配信、Twitter等を通して、教育活動の情報を発信(最低月1回は配信)し、家庭や地域に学校への理解を深めてもらう。	(1)適時に情報発信を月1回以上配信することができたか。	(1)PTA関連の情報や行事・学校説明会等、教育活動の様子をWebページ、メール、Xで配信できた。	(1)メール配信の登録を年度初めにお願いしているが、全家庭に連絡できているか不明なため、「生徒」「保護者等」に分けて配信できるようにする。	(1)地域交流室の活用や若い力のボランティア促進を進めたいです。メール配信は災害対策に有効で、登録率向上を期待します。	(1)メール配信登録が不徹底のため、全家庭に登録を促し、学校からの安定した情報発信を充実させる。地域と生徒の協働活動の活性化のため、ボランティア活動を充実させる。	(1)地域団体との連携を深め、若い力を活かしたボランティア活動の機会を増やす。
5 学校管理 学校運営	(1)生徒が安全で、安心でき、居心地の良い学校生活を送ることができる学校づくりに取り組む。  (2)一層の組織的な学校運営と業務の効率化を図る。  (3)教員のワークライフバランスを推進するために、働き方改革を推進する。	(1)校内美化向上に向けて意識向上を図るとともに、非常時に向けた防災教育、防災用品整備に取り組み、生徒が心地よく安心して生活できる環境を確立する。  (2)組織的に職務を遂行し、生徒・保護者・教員が共に活動する。  (3)教員のワークライフバランスを推進するために、働き方改革を推進する。	(1)大掃除等でモップ等の掃除用具やカーテン等備品の交換を行う。校舎内の物品整理を行い、環境整備を図る。危機管理マニュアルを見直し災害に備える。  (2)-①既存の学校行事等とPTA活動等を重ねることにより業務の効率化と生徒・保護者・教員の良好な関係性を目指す。  (2)-②成績処理業務を確実に遂行する。  (2)-③入学者選抜の要項および研修会の充実を図る。	(1)-①環境委員会と連携し、教室等の環境整備を行うことができたか。  (1)-②各倉庫の物品整備や適切な在庫管理ができたか。  (1)-③保護者や地域の方と共に防災活動ができたか。  (2)-①保護者や地域と連携する学校行事において組織的に業務の効率化を図れたか。  (2)-②成績処理業務が確実に遂行できたか。  (2)-③入学者選抜業務が確実に遂行できたか。	(1)-①環境委員会と連携し、各学期終わりや校内行事での大掃除に取り組んだ。また、清掃用品の整理・管理が適切に行えた。  (1)-②防災用品の保管場所の整備や適切な在庫管理ができた。  (1)-③保護者等や地域の方と共にDIG研修・防災倉庫確認・避難所会議開催などの防災活動ができた。  (2)-①PTA活動においてグーグルクラスルームを利用した情報の共有化で業務の効率化を図ることができた。  (2)-②「チェックシート」「確認票」をもとに成績処理業務を行うことができた。  (2)-③入学者選抜要項を作成し、適切な業務に努めた。研修会も実施できた。	(1)-①古い机・椅子を新しいものに交換し、より良い学習環境を整えていく。  (1)-②防災用品の整備に物理的なマンパワーが多く必要なことが課題である。生徒・職員で協力していく。  (1)-③防災活動、防災教育において今後、市の防災対策課とも連携していく。  (2)-①保護者等の参加数が少ないことが課題である。今後もメール配信等を活用し協力・参加を呼びかける。  (2)-②成績処理業務を確実に遂行する。成績処理シートによる成績の確定方法について、教科内の共通理解を深めていく。  (2)-③入学者選抜業務を要項に基づき、計画的に実施していく。要項を一層充実したものにする。	(2)成績処理のヒューマンエラー防止のため、ダブル・トリプルチェックの導入を検討してください。先生方は教科指導や生徒指導、地域活動に熱心に取り組まれており、高く評価します。成績業務の確實性が強調されている背景についても確認が必要です。Google Classroomの活用も良い取り組みです。	(1)環境美化や防災対策に取り組み、校内の環境整備を進めることができたが、防災用品の管理や整備に多くの人的負担がかかっている。  (2)成績処理業務は「チェックシート」「確認票」を活用し、適切に遂行されたが、成績処理のヒューマンエラー防止のため、さらなる精度向上が求められる。入学者選抜業務を適切に遂行し、研修会も実施したが、さらなる要項の充実が求められる。	(1)生徒・職員の協力を得て防災用品の整備を進め、市の防災対策課とも連携を強化する。  (2)成績処理シートの活用を徹底し、教科内の共通理解を深める研修を実施する。入学者選抜の要項を精査し、計画的に業務を進める。

